



# AMORPHOUS

ニュースレター Vol. 13 No. 1 2000

## 《主な記事》

YMO 新旧役員の方、1999年度 YMO 総会（於水戸）、会計報告、会員消息、事務局より（会員名簿のアップデートに関して）、広報より（電子掲示板へのアクセス）、代表より（2000年度夏の学校に関して）

## 《YMO ニュース》

### YMO 新旧役員関連

## YMO 事務局を終えて

山口大学工学部機能材料工学科 中塚晃彦

昨年6月に行われました茨城でのYMO総会を最後に、2年間のYMO事務局の任期を終え、新事務局の安東さん（広島大）にその任務を引き継いで頂くことになりました。振り返れば、YMOの旗揚げ当時の目的である「若手研究者の交流の場の提供」を目標に頑張ってきましたが、その役目を十分に果たすことができず、また、Amorphousの発行も遅れ気味だったと反省しております。会員の皆様にはご迷惑のかけっぱなしで誠に申し訳ありませんでした。

現在の鉱物学のトピックスなどの「話題」について意見交換できる「場」を提供することが、Amorphous発行の役割の一つであると思います。しかし、最近のAmorphousは事務的な内容に傾倒しており、「話題」の提供に少々欠けているように思います。また、現在のYMOの活動自体も、旗揚げ当時と比較して、その目的意識が薄れ、惰性的なものになっているように感じられます。こ

の原稿が掲載される頃には、すでに21世紀まであと一年になっていると思いますが、この新しい時代に向けて、YMOの活動のこの停滞期から早く抜け出し、21世紀の鉱物学の発展にYMOがどのように貢献していくかを真剣に考えるべきだと思います。最近、インターネット上でAmorphousを閲覧できるように、Amorphousを電子化しようという意見が出ていますが、そうなれば、今よりも迅速かつ楽にお互いの意見交換ができるようになり、YMOの目的の一つである「若手研究者の交流の場の提供」が今まで以上に活発に行われるようになることが期待できます。任期中は私自身の力不足のため、Amorphousを意見交換の場として十分に皆さんに活用していただけなかったと思いますが、Amorphousを今よりもいっそう良いものにしていただけることを後任の安東さん（広島大）に期待しております。最後に、任期中の皆さんのご協力に感謝いたします。

## YMOの事務局を引き受けて

広島大学 地球惑星システム学科 安東 淳一

今後2年間、事務局の仕事を担当させていただく事になりました広島大学の安東と申します。他の役員の方々と協力して、YMOが会員の皆さんにとってより良い会になる様に頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

最初から申し訳ないのですが、私はこれまでYMOの活動に積極的には参加して来ませんでした。第7回の夏の学校「マンツルの鉱物学」に参加発表させていただ

いた事と、今年の夏の「放射光を利用した地球惑星物質科学」に参加勉強させていただいた程度です。これは、YMOの事が嫌いだったからではなく、私の研究のバックグラウンドがどちらかというと地質学に寄っていた為です。今年の夏の勉強会の懇親会の席で、参加者の皆さんがYMOの今後の事を話されている際に、東北大学の近藤さんと「YMOの意義って何なんでしょうね？」と話

しあっていた程です。そこで、この紹介文を書くにあたり、同僚の大川さん(95年から97年にわたりYMOの広報を担当されていました)に過去のAMORPHOUSをお借りして(Vol.2のNo.2から全て)YMOの事を勉強してみました。科研費の書類提出が間近だったので、面白く時間を忘れて一気に読み終わりました。その結果、YMOの根底にある意義・目的が、若手研究者の交流と育成を通して鉱物学の将来への展望を考えるとと言う事だと理解出来ました。そして、歴代の代表の方々を中心として、その時々には鉱物学を志す若手の研究意欲への啓蒙がしっかり行われてきた事に感心しました。

しかし、少なからずどの様な会でも、設立当時の会に対する情熱と目的は時間と共に変わっていきます。YMOも発足後12年が経ち第一世代の方々がいなくなり、その意義が変わってきている事も理解できました。発足当初は、「鉱物学の将来を危惧して・・・YMOは、'若手'と呼ばれる世代間で鉱物学の将来の展望について見つめ直す」(AMORPHOUS Vol.5 No.2 下林さん)と言う側面が非常に強かった様ですが、時間の経過と共に現在では、「若手の交流の場を提供する。単なる場の提供ではなく・・・ある話題について忌憚のない意見交換が出来る場を、YMOが提供する」(AMORPHOUS Vol.9 No.2 永井さん)事が、中島さんが言う「YMOの活動に対して内発的な必然性」(AMORPHOUS Vol.5 No.2)になっている様です。どちらの意義・目的も非常に重要な事であるし、

12年間ではありますが、その時々には鉱物学を志している若手を良い方向に導いて来た事は間違いありません。何時の時代でも、年長者は「今の若者は」と言いたがりですが。

しかし、また、21世紀を目前とした今、日本の大学の組織は大きく様変わりしようとしています。鉱物学を含む地球科学の全分野は、好むと好まざるに関わらず大きく変化してきています。その様な時代の中で、YMOの会員の皆さんがおかれている状態も変わってきていると思います。従って、近い将来に、「内発的な必然性」として「鉱物学の将来を危惧した」YMOのあり方が再度大きく問われる時期が来ると思います。この様な時に、YMOに大きく関わる事の責任の大きさを感じています。

最初に書きました会員の皆さんにとってより良い会とは何かですが、事務局の仕事としましては、ここ数年来問題となっていました、ホームページの整備とAMORPHOUSの電子化などに力を注ぎ、会員相互のコミュニケーションが現在よりも簡便に行える様にしたいと思っています。

では、2年間、よろしくお願いします。

最後に、現YMO代表の井上さん、ご結婚おめでとうございます。

## YMOの広報担当となって

名古屋工業技術研究所 奥寺 浩樹

常勤職に就いていなかったのをいいことにYMOの仕事の依頼をのりくらりと躲してきましたが、この度Amorphousの電子化を睨んで広報の仕事を受けたいとの依頼があり引き受けることにしました。電子化を睨んでとは言っても耳学問ばかりで実践は伴っていないのですが、これから二年間(既に半年以上が経過してしまいましたが)Amorphousの発行が遅いとか、中身が薄いと色々至らない事があるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いします。

今、目の前にはAmorphous vol. 5 no. 2 (1992)の編集画面が表示されています。この号を読むと、YMOがマンネリ化しているという批判が実に10年も前からあるということに驚かされます。10年前というと、修士を終えて一旦サラリーマン生活を送っていた私にとっては、毎年学会毎に総会があり、タイミングを見て夏の学校があり、大勢の学生と顔見知りになるチャンスに満ちた充実した時期であったような記憶があるのですが、また、同じ文章中には1991年の鉱物学会年会のシンポジウムを作り上

げた旨の文章もあり、当時周囲がYMOに抱いていた期待、そして中心メンバーがその期待に応えようとYMOを精力的にオーガナイズしていた様子が目に浮かぶようです。

当時の原稿をまるごと再録したいという誘惑に打ち勝つのはなかなか大変です。というのも、この号にはYMOのコンセプト(「YMOの活動に対して(中略)動機が生まれてくる次の波まで待ってもよいと思います。YMOの活動の形態も、その都度思考錯誤をしながら変化していったよいし、(中略)...皆さんが作り上げていくものです。」中嶋代表の退任挨拶)が提示されているからです。組織としての明確な目的を設定し、学会の下部組織的として組み上げる方が(中心メンバーへの負担の多少は別として)オーガナイズしやすかったのでしょうか、これまで「ゆるやかな組織」のままに続けてきたのは、すくなくとも当初のコンセプトが引き続き共有されてきている事を示しているのだらうと思います。一方、YMOのヴィジョン(「若手研究者間の風通しを良くして、お互い

の視野を広げる。」「若手」と呼ばれる世代間で鉱物学の将来の展望について真剣に見つめ直す」「(将来的には) YMOで鉱物学関連のテキストを発行してみたらどうか」(下林氏の代表就任挨拶)は実現されているでしょうか？

上記のビジョンが実現されているかどうか考えると、YMOにはまだ有効に機能して欲しい局面が多くあるように思われます。個人的な意見を述べさせて頂ければ、YMOの有効性は実はとても身近なところにあるのではないのでしょうか。例えば各種財団による研究助成の情報(通る？書くだけ無駄？どう書けば通る？)共同研究機関へのマシントイムの申請(の前の事前情報の入手) 試薬が1g欲しい(現在は管理が厳しくなりましたので迂闊にこういう話はできませんが) ちょっと畑違い

## 記事(総会報告、会計報告)

### 総会報告

日時：平成十一年 九月二十三日

場所：茨城大学

出席人数：15人

### 議題

役員改選(事務局、広報)

- ・選挙の告示をAmorphous誌上で行わなかったのは不適切であったとの指摘があった。
- ・会員に対する選挙の告示と不在者投票の受付を総会の一週間前に電子メールを利用して行ったが、実際には会員に連絡が届いていないケースがあった。これに関しては事務局が現在の会員の所属と電子メールアドレスの更新を行う事とした。これはAmorphousの電子化(後述)への前提でもあるだろう。

### 会計報告(平成九年度 平成十一年度前期 寺田)

- ・内容は別記の通り。
- ・会計報告が二年半分になったのは、前任者からの引き継ぎの際のトラブル(口座移動が難航したこと)のためとの説明があった。

### Amorphousの電子化について

旧事務局より、Amorphousを紙に印刷したこれまでのものから、コンピューターネットワークを媒体としたものへ移行してはどうかとの提案があった(YMO会員相互の情報伝達は基本的に電子メール、ウェブサイトを使って行う)。理由はコスト削減、速報性、インターネット環境が一般化した事等による。上記について会員から以下のような意見が出された。

- ・現在のYMOの会員の特典としては、会員のメーリン

で良く判らないんだけど、誰か参考になる論文を知らないか？といった情報の交換です。

このような情報の交換は印刷して配付する媒体には向いているとは思われません。今後もAmorphousの発行は(YMOの存在を明確にし続ける為にも)必要でしょうが、YMOの会員諸氏が既に何年も前から提案しているインターネットを利用した情報交換をできるだけ早く普及させ、有効に活用する必要があると考えます。

最後になりますが、私一人に何かをさせるとつい暴走してしまう傾向があるようです。会員諸氏にはぜひがちりと手綱を引いて頂きたく宜しくお願いいたします。

グリスト(特定の宛先にメールを送送すると、その内容がグリストに登録された全員に送付されるというもの。電子会議とほぼ同義)の開設、夏の学校への参加費用を非会員と比べて割安にする等の意見が出された。

### 会計報告

YMO平成9年度-11年度(前期)収支決算

平成9年度-平成11年度収入内訳

繰越金	¥227,908
会費	¥140,000
雑収入	¥41,320
利子	¥318
収入合計	¥409,546

平成9年度-平成11年度支出内訳

会報印刷費	¥91,390
郵送費用等	¥97,600
文具代(封筒等)	¥14,328
アルバイト代	¥32,182
秋の学校補助	¥10,000
支出合計	¥245,500

### 次年度繰越金

409,546 - 245,500 = ¥164,046

## 《代表より：第13回 YMO 夏の学校開催要項》

20世紀最後の YMO 夏の学校を以下の要領で開催したいと思います。今年度の夏の学校も東京大学地震研究所研究集会として開催されます。

(テーマ) 21世紀の地球惑星物質科学

(場所) 兵庫県立西はりま天文台 〒679-5313 兵庫県佐用郡佐用町西河内407-2

Tel: 0790-82-0598 (管理棟受付) 0790-82-3886 (天文台)

(日時) 平成12年9月4日(月) 昼から9月6日(水) 昼まで(2泊3日)

宿泊は2泊とも西播磨天文台の宿泊施設を利用します。講義には天文台のセミナールームをお借りします。また、9/6の朝、西播磨天文台を出発してSPring-8に向かい、10時から12時まで2時間、SPring-8を見学させていただきます。見学の後、昼食を取って解散となります。

(参加費) YMO 会員: 10000円、YMO 非会員: 11000円

参加費には宿泊、食費、懇親会費の全てを含みます。全ての日程を参加されない方については、その分の食費、宿泊費を差し引いて算定致します。また、今回の夏の学校に参加される学生さんには、些少ですが旅費の補助を予定しています。

(参加者定員) 60名程度

(申込み期限) 7月31日(月) 必着

<主旨>

20世紀の最後の2000年を迎え、今後、地球惑星物質科学が目指すべき道は何か、今までの研究を包括的に整理しながら議論するのが本夏の学校の目的です。21世紀の物質科学の進歩は、1つには3年前から共同利用が開始された新しい放射光施設SPring-8の利用を無視してはあり得ないことは多くの研究者が認めるところです。この意味も込めて、今年度も会場はSPring-8周辺で行い、SPring-8の見学会も同時に行います。今回の夏の学校は昨年行われた YMO 夏の学校「放射光を利用した地球惑星物質科学」の第2弾であり、今回はより研究対象を広げて、放射光利用に限定せず、地球惑星物質科学の将来を議論できればと考えています。特に21世紀の科学を担う若手の皆さんの参加を期待いたします。鉱物学以外の分野の研究者の方も大歓迎です。最後に本夏の学校は、東京大学地震研究所研究集会「21世紀の地球惑星物質科学」と兼ねて行われることを申し添えておきます。プログラムは決まり次第、次号の Amorphous 及び YMO のホームページでお知らせします。

尚、天文台での開催なので、夜は口径60cmの天体望遠鏡で、惑星や星、銀河の観察ができます。また夜は十分懇親会の時間を取ってありますので、これからの地球惑星物質科学について大いに語り合え、お互いに親睦が深めあえることを期待しています。

参加希望の方は下記の代表者宛てに、必要事項(最終頁にあります)を記入した電子メールでお申し込みください。もちろん郵送、ファックスでも受け付けます。最終頁を適宜コピーしてお使いください。お問い合わせも下記までお願いいたします。

YMO 代表 井上 徹

愛媛大学理学部生物地球圏科学科

790-8577 愛媛県松山市文京町2-5

Tel: 089-927-9658 (直通)

Fax: 089-927-9640

E-mail: inoue@sci.ehime-u.ac.jp

## 《会員消息》

(2000.5.24 までに事務局に通知があったもの)

退会 (氏名のみ)

荒川政彦・伊藤義浩・加納誠介・窪田武志・斎藤潤・佐藤和彦・里川重夫・田口康博・鄭貞仁・豊田文紫・富岡和重・中田英二・廣田法秋・関 恩基・森本信男・柳生玄太・山村健

消息不明者 (氏名 (旧所属))

牛島明 (ジオサイエンス資源環境地質部)・長谷川勝彦 (所属不明)・三津木亨 (半導体エネルギー研究所)・山口亮 (所属不明)・吉野隆 (筑波大学理工学研究科)

## 《事務局より》

2000 年度を迎え、会員の皆様には所属が変更となった方が多いようです。事務局では、YMO の会員名簿の更新のため、昨年度末より会員の皆様の所属調査をしています。事務局で電子メールアドレスを把握している会員の皆様には既に電子メールでご案内していますが、これは将来の Amorphous の電子化やメーリングリスト開設への備えでもありません。

四月末の時点で、多くの会員の皆様よりお返事を頂いておりますが、現在のところ少なくない数の電子メールが宛先不明で返送、あるいは返事がなく、所属の確認ができていない状況です。又、事務局に電子メールアドレスの記録がなく、メールによるご案内を差上げる事ができない会員の方も多くいらっしゃいます。現在、出来る限り追跡調査を行っていますが、会員の皆様の現住所他を把握し終わるにはもう少し時間がかかる見込みです。

この様な現状の中、5月24日までに把握しています《会員消息》を上記しました。消息不明者に関しましては、心当たりがある方がいましたら、事務局まで連絡して下さいをお願いします。

電子メールで現所属の調査が出来なかった会員の皆様には、住所のチェックをお願いするハガキを同封しています。チェックの上、投函して下さい。住所その他に変更がない場合でも、投函をお願いします。

会員の皆様の新住所録が出来次第、メール或いは手紙を使用しての配布を行いたいと思っています。

## 《広報より》

挨拶でも皆さんが書かれている通り、YMOの活動をインターネットを媒体として展開してはどうかという意見は日を追う毎に大きくなっているようです。YMOでも地質調査所の柳沢会員の尽力で暫定とはいえホームページが開設され、学会カレンダー等は会員の皆様も充分活用されていることと思います。一方、昨年開設された電子掲示板は十分に活用されているとは言い難いのが現状です。毎年夏に行われるYMO夏の学校を例に取りますと、初夏の鉱物学会年会という会員のコンセンサスを得る絶好の機会が失われた現在は、実質数人の会員で総てを練り上げなければならない事態となっています。会員の皆様もぜひ電子掲示板にアクセスして、どのような話題、質問でも構いませんからコメントを残して頂ければ幸いです。まずは夏の学校についての疑問質問、Amorphousの発行が遅れたことについて苦情などは如何でしょうか？

YMO ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/9020>

<http://www.aist.go.jp/GSJ/ynorio/YMO/home.html> (ミラー)

電子掲示板 (ホームページからもリンクされています)

<http://hpcgi.nifty.com/yanori/aska.cgi>

YMO 2000 年度役員	代表	井上 徹	inoue@sci.ehime-u.ac.jp
	事務局	安東 淳一	ando@letitbe.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp
	広報	奥寺 浩樹	hokudera@nirin.go.jp
	会計	寺田 靖子	yterada@ch.kagu.sut.ac.jp

## 編集後記

ようやく第 13 巻第 1 号を皆様のお手元にお届けすることができました。前回の総会から既に半年が過ぎ、前回の Amorphous から一年近くが経過してしまいました。これだけ間が空いても依頼原稿もなければ毎号掲載されている学会カレンダーも掲載していないという内容的には薄いものとなってしまいました。ご批判もあろうかと思いますが、急を要する内容もあり、まずは発行することが第一と考えました。次号は従来のフォーマットを踏襲したものとして可能な限り速やかに発行する予定です。

(第13回 YMO 夏の学校 参加申し込み必要事項)

1. 氏名 \_\_\_\_\_

2. 所属 \_\_\_\_\_

3. 役職・学年 \_\_\_\_\_

4. 住所・電話番号 \_\_\_\_\_

5. メールアドレス \_\_\_\_\_

6. YMO 会員、あるいは非会員の別 (どちらかを囲んでください)

会員

非会員

7. 宿泊及び食事の要・不要 (あるいは×で)

宿泊: 4 ( ) 5 ( )

食事: 4 夜 ( ) 5 朝 ( ) 5 昼 ( ) 5 夜 ( ) 6 朝 ( ) 6 昼 ( )

8. 旅費の支給の要・不要 (学生のみ)

どの程度対応できるか現段階ではなんともいえませんが、できる限り考慮したいと思います。

巻頭の飾り文字“YMO”は宮脇律郎氏(国立科学博物館)によるデザイン

AMORPHOUS 第 13 巻 第 1 号

2000年 6月発行

発行者: YMO 代表 井上 徹 愛媛大学理学部生物地球圏科学科  
編集者: YMO 広報 奥寺 浩樹 名古屋工業技術研究所 セラミックス応用部  
印刷: 広島大学 生活共同組合